

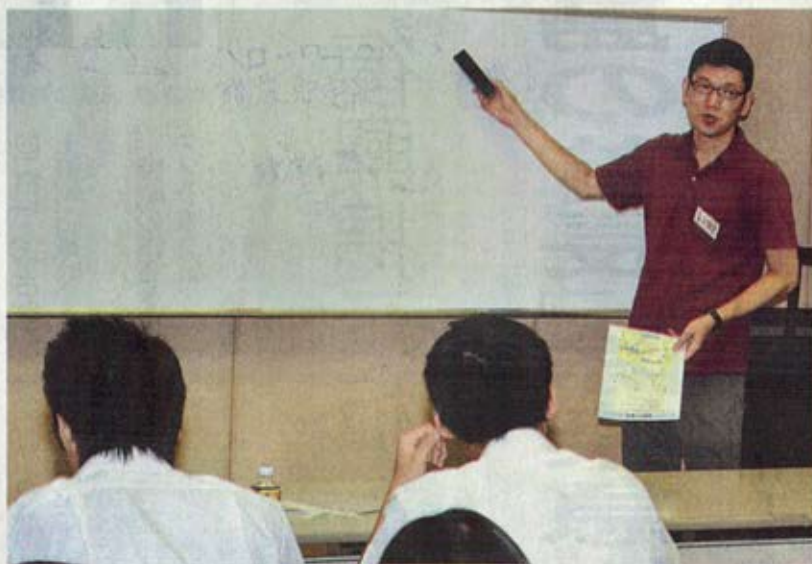
子供の自立支援続け10年

就活、生活費管理……

親に代わり指南

児童養護施設や里親の元で暮らす子供たちの自立支援をするNPO法人「エンジェルサポートセンター」(立川市)の活動が、今年で10年目を迎えた。就職活動や生活費の管理の仕方などを教える計5回のプログラムで、自立を支援してきた高橋利之理事長(39)は、活動を通して、自立支援の重要性が認知された。今後はもっと活動の輪を広げていきたい」と語った。

「自立って何かな」。立川の男女17人の参加者に語りか
市で9月上旬、今年度の自立 けた。
支援プログラムが開催され、「誰の力も借りず自分の力
高橋理事長が、高校2、3年 で生きていくこと」「仕事と



立川のNPO法人

家事を両立して生活していくこと」。参加者は施設退所後の生活を思い浮かべながら答えた。

この日は、臨床心理士の榊原明美さん(48)や、かつてプログラムを受講し、奨学金とアルバイトで生活しながら都内の大学に通う女子大学生(19)も講師として参加。榊原さんは「うまくいかない時の対処法を知り、暗い気持ちにならないようにすることが大事」と助言し、女子大生は「強い気持ちを持たないと何も始まらない。将来何をやりたいのか真剣に考えてほしい」と語った。

同プログラムでは、健康的な食生活を送るため食事の作り方を学んだり、消費者生活センターの職員を講師として招き、悪徳商法対策や携帯電話の注意点を学んだりする。

厚生労働省によると、虐待や貧困などが原因で児童養護施設や里親の元で暮らす子供は全国で約3万3000人いる。同法人の調べでは、高校卒業後、施設や里親の元を離れ一人暮らしを始める子供たちは都内で、毎年約120人いるという。

設立は2002年12月。「施設だけでなく社会が子供たちを支援する仕組みを作りたい」と考えたのがきっかけだ。翌年、NPO法人化してプログラムを始め、現在、主婦や会社員、学生など約20人がスタッフとして、プログラムの運営に関わっている。10年からは、青森や福岡、兵庫の3県でも同プログラムを開催している。

これまで、同プログラムの卒業生は約1200人。「普通の家庭の子供よりも、自立の準備ができてると自信を持てるようになった」「夢の実現のため、高校を卒業したら就職し貯金をして将来は進学をしたい」などと、参加者から感謝の言葉が寄せられている。

08年からは、フィリップ・モリス・ジャパンの支援を受けられるようになり、全5回のプログラムを修了した子供たちに、家電製品やスーツを無料で提供している。「家電製品やスーツ目当てでもいい。まずはプログラムに参加し、自立への準備をすることが大切だ」と高橋理事長は語る。

今後は、被災地支援の一環として、福島県の児童養護施設と共にプログラムを現地でも実施し、地元の企業や行政関係者を、講師に招くことを考えている。

参加者を前に、「今日からすぐに自立への準備をすることが大事」と語る高橋理事長